寒 椿

# 町内会短信 2月号

2023年2月 1 日 川沿中央第一町内会長 金山征晴

如月

市から札幌市浸水ハザードマップ南区版が各戸に配布されました。内水氾濫と洪水の避難地図が記載されていて土砂災害警戒区域も明示されています。このような詳しい情報が配布されたのは初めてと思いますが、もうご覧になったでしょうか。幸いにして当町内会は洪水の心配はあまりないようですが、内水氾濫のリスクはそれなりにあるようなので、土砂災害も含めてこの際よく確認しておいた方が良いかもしれません。

令和5 年 1 月・2 月の活動報告及び活動予定については下記の通りです。

**1 月の町内会活動報告**

12 月 23 日（金） **パートナーシップ゜実施申込み**
1 月 11 日（水） **町内会資源回収**
1 月 14 日（土） **資源回収実績報告提出**
1 月 20 日（金） **パートナーシップ゜覚書（契約）**
1 月 24 日（火） **小役員会**

恒例の新年会は、昨年に引き続きコロナのため中止しました。

**2 月の町内会活動予定**

2 月 8 日（水） **資源回収**
2 月 21 日（火） **パートナーシップ゜排雪開始（→2月25日（土）終了予定）**

◆**パートナーシップ排雪**は降雪の状況や他地域の進捗状況によって、**日程**が**変更**になることが**あり得**ます。

## コラム 〔川沿の小窓から ⑨〕 川沿中央第一町内会 相談役 柴田田鶴子

1 月 25 日付朝日新聞文化欄に、北九州中心の孤立困窮者生活支援団体 NPO 法人「**抱撲**(ほうぼく→脚注)」の活動が載っていた。代表の奥田知志氏は牧師の父を持ち、(私も二、三度お会いした) 若いけれど傑出した人物である。「**抱撲**(ほうぼく)の活動に依り、自立し今は支援者として活動している方の「助けて」と言えた日が助かった日です」という言葉が胸に響いたと記者は言う。

又記事はこうも続く。自己責任という言葉が独り歩きし、人に迷惑をかけないことが美徳とされる今の世、どれほどの人達が「助けて」という言葉を呑み込んでいるだろう。そして東大准教授の熊谷晋一郎氏は「自立とは、依存先を増やすことである」と。何でも自分で行うことでなく、互いに助け合える関係を人々と築くことが自立であると。誰もが助けてと言え、お互いを助け合うことのできるコミュニティーに我が町内会もなっていけたらと切に願う。「助けて」と言えることが明日への希望へとつながっていける様なコミュニティー作りへと発展していけたらと思う。

※「抱撲(ほうぼく)」とは、「人為が加わってなくありのままで、飾り気がない天性のままのものを包み込む」の意。「抱」は「いだく、包み込む」。「撲」は朴と同じ。

裏へ

# 郷土史より（視野を広げて）蝦夷共和国総裁・榎本武揚（1）

郷土歴史家　吉田邦行

天保 7 年（1836 年）、下級武士の次男として榎本武揚（たけあき）（1836～1908 年）は、江戸御徒町で生まれた。武揚は、本名を榎本釜次郎という。幕府の天文方・伊能忠敬が全国測量をした時、その内弟子として父の円兵衛は、蝦夷地の測量に同行したことがあった。戦いが無く安定した世になると上級武士は、それなりの学問を習得すれば家督を継げ安泰が得られた。しかし、下級武士はいくら武術に秀でても道は開けず、算盤や学問に秀でていなければ、出世できない時代であった。武揚は 12 歳から幕府直轄の儒教などの学門所・昌平坂学問所（のちの東大）に入所、またジョン万次郎の私塾に通い英語を学んでいた。 5年後の卒業試験には、最下位の成績しか得られなかった。それは学門所が、幕府官僚の子息を優先して良い成績を与えたもので、能力は正当に評価されない風潮の結果であった。武揚は学門所から、蝦夷地箱館奉行所に推薦されたため任地に赴く。箱館ではロシアの追撃（クルミア戦争中・ロシア対英仏連合国）を恐れたフランス艦隊が、緊急避難しており、目の当たりに西洋技術の先進性に驚いた。ちょうどその頃、幕府が将来を担う人材を育成するため、長崎に海軍伝習所が開設された。箱館から帰った 19 歳の武揚はすぐ応募した。しかし、幕府官僚の子息優先に阻まれ、三期生としてやっと入学が許された。このとき一期上に勝海舟が在学していた。そこでは航海術、数学、化学、蒸気機関学など多岐にわたる科目を習得できたのである。そこで徹底した海軍教育を受け、トップの成績で卒業した武揚は、江戸に新たに開かれた築地海軍操練所から 24 歳の若さで教授に迎えられた。

27 歳の時、幕府が留学生制度を設けるとそれに選出され、オランダに留学することができたのである。幕府が、外国に対抗できる軍艦 「開陽丸」発注にともない、海軍留学生 14 名の一員になったのである。爾来、4 年 6 カ月「開陽丸」竣工まで、彼らはハーグの海軍兵学校およびドイツで、西洋の学問を習得することになる。そこではフランス語、ドイツ謡、オランダ語、ロシア語の他、政治、経済、軍事国際法、ヨーロッパ文化、海軍兵制、航海術、物理、化学、農業、工業、鉱山学の知識を習得した。

◆開 陽 丸 2817トン（世界第一級の木造軍艦）
◆咸臨丸 630トン
◆ペリー軍艦 2500トン

1867 年、完成した開陽丸で帰国したのは 32 歳の時であった。釜次郎から武揚に改名したのもこの頃である。武揚は幕府から海軍副総裁に任命されたがその直後、大政奉還によって江戸幕府が、終焉を迎えるという考えられない事態になった。そして蛤御門の変（禁門の変・長州藩が形勢挽回のため京都に出兵、治安部隊に破れた事件）の騒ぎを起こした長州藩を成敗するため、鳥羽街道を京に向かって進軍する幕府軍に対してそれを阻止しようとして薩長兵は、鳥羽・伏見で布陣していた。1868 年 1 月 3 日に交戦となり、いわゆる戊辰戦争が勃発した。

（次号につづく）